助產師教育

NEWS LETTER



公益社団法人 全国助産師教育協議会 Japan Society of Midwifery Education

No.86 2016, 3, 3



理事会の活動を通して学んだこと 全助協組織強化の必要性

全国助産師教育協議会副会長 福岡県立大学大学院看護学研究科 助産学領域 教授 佐 藤 香 代

平成27年6月、福岡の総会で新理事会が発足した。会長交代に伴い三役も刷新され、私は副会長(総務担当)に選任された。事務所の移転に理事会の陣容と何もかもが新しく、果たしてこの私に重責が果たせるかと悩むまもなく次々と事案が持ち上がり、大きな波に呑まれるようにその対応に追われていった。

最初に行ったことは、「助産師教育における将来ビジョン 2015」を打ち出したことである。社会のニーズに応え日本の助産師の未来絵図をどう描くか、主たる道筋を示すことができたことは、全助協として大きな進歩だと考える。

次に対応を迫られたのは、厚労省医政局看護課から 9月1日に出された通達である。母性看護学実習施設 に産科医療施設以外も含め、さらに実習の1/3に当た る1週間を学内演習に置き換えることができるという 内容である。現在看護基礎教育における実践能力の低 下が問題視されており、助産師教育機関は助産学演習 に入る前の基礎的看護実践能力の習得にかなりの時間 を費やしている。この通達により、助産師教育のレディ ネス低下が加速される。複数の会員からも同様の意見 が理事会に寄せられた。早速厚労省に今回の通達に対 する助産師教育機関としての危惧を伝え、通達に至っ た経緯や意図する内容を尋ねた。その結果、実習時間 の削減や実習施設要件の緩和等の要望はむしろ養成所 から出されたものであり、今回の通達はあくまでも養 成所向けに出したものであること、諸方面から通達に 対する意見が出ていること、安直な運用は意図すると ころではないとして、平成28年度の総会で厚労省か らその経緯と意図を説明していただくことになった。 それに加え、全助協が主導し、日本助産師会、日本助 産学会、日本助産評価機構の4団体で、厚労省に要望 書を提出できたことは大きな成果であった。

第三に助産師教育の根幹を揺るがすような事案が持ち上がり、衝撃が走った。指定規則に定められた助産学実習中の分娩の取扱を現行の10回程度から8回程度に緩和する地方分権改革に関する提案が2県から提出されたのである。これに関してはいち早く理事会で10回程度堅持の方針を出し、その根拠となる資料を厚労省に提出した。また厚労省の看護職員確保対策特別

事業の補助金を獲得し、「助産師教育における臨地実習に関する実態調査」を取りまとめ、今年度中に厚労省に報告する予定である。さらに厚労省及び文科省には、10回程度は、助産師としての基礎的知識技術獲得の最低の線であるとして、現行維持の要望書を提出した。その結果、厚労省は12月22日の閣議決定を経て10回程度堅持を打ち出し、厚労省及び文科省から全助産師教育機関にその旨の通達が出された。これも当協議会が迅速に動いた結果であると考えている。

上記の活動を通して感じたことは、当協議会は日本の助産師教育の羅針盤を示す重大な役割を担っているという確信である。今回各省は当協議会が全国の助産師教育を束ねる組織であるとして対応や相談がなされた。この意義は非常に大きい。しかしその一方で現在78%に留まっている組織率を限りなく100%に近づけることで、強靭で揺るがない組織にすることが必要である。対外に日本の助産師教育機関が1つにまとまっていることを示すことで、その言説の説得力が大いに増すからである。

また今回のような事案が生じたとき、各省に迅速に働きかけ、多くの職能団体と一致団結して事に臨むことの重要性である。そのためには様々な関係機関の会議に出席し顔の見える関係でいること、情報を多方面から素早くキャッチし対処できる体制づくりが必要である。また国の予算がいつどのような形でつくら要性ある。また国の予算作成にコミットしていく必要性も学んだ。戦略的・政治的に行動することは助産師の最も不得手な部分であるが、今後は的確かつ敏速な対応が組織として問われることになる。

さらに助産師教育に携わる者としての自負が必要である。各省と議論し見えてきたことは、現在の7つの教育課程は、実は教育機関が望んだものであるということである。それぞれの地方の状況や教育機関の事情があることは理解できるが、今後将来に禍根を残さないためにも、日本でどのような教育をして後継者を育成するのか、大局的な見地を持って考える必要がある。全助協という強靭な組織の中で一つの方向性を見出し、その達成のための戦略を持ち一丸となって進むことこそ、最も重要であると認識する日々である。

扉	1	トピック	
教育·活動報告	2	わかばの部屋 8	3
ニュース	J	理事会報告)
全助協からのお知らせ	4		

中国・四国地区研修会報告

平成27年度 中国・四国地区地区長

池 高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 看護学専攻 母子看護学分野 実践助産学課程 内 和 代

【日時】平成27年8月29日(土)

【場所】高知大学医学部岡豊キャンパス

【内容】

11:45~12:45 中国·四国地区交流会

13:00~15:30 研修会

テーマ 「BLSO・ALSO (周産期救急に効果的に 対処できる知識や能力を発展・維持する ための教育コース)を助産師教育に活用

師 高知大学医学部附属病院産婦人科医師 池上信夫先生・渡邊理史先生

1. 中国·四国地区交流会

参加校:9校 内容:

- 1) 理事会報告(鈴木理事)
- 2) 情報及び意見交換
- (1) 短い実習期間で分娩件数 10 例程度を確保す る困難さについて
- (2) 分娩への教員付き添いについての厳しい現状 について

(3) 教員の助産実践能力認定レベルⅢ取得の必要 性について

厳しい状況のなか助産学生育成のために各校前向 きに努力している等、忌憚のない意見交換ができ、 教員個々の励みにもなった時間であった。

2. 研修会(図1·2参照)

参加者数:16名

内容 :本コースの目的、産科出血時の対応等、

演習状況のビデオ紹介、等々、周産期 の現状をふまえ、本コースの重要性を

教示いただいた。

想 :参加者からは、「大変満足した」・「満

足した」、という回答を得た。また、 より具体的な取り組みについて機会を もうけてほしいという意見や、産科ガ イドラインとの整合性についての質問

もあった。本コースの演習等は助産師 教育に役立つ内容であると考えられ

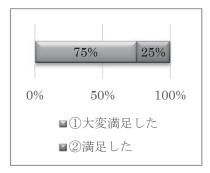


図1:企画の満足度

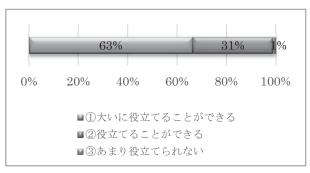


図 2:助産師教育・実践の活用

Ⅷ100000 「傷害保険+共済制度」は、養成施設をご卒業された 助産師の方々にご加入いただける補償制度です。

約68% 割引

年間掛金 6,200₽

安心 ご自身のケガ

業務中、患者さんをベッドから車イスに移乗させる際、 腰部捻挫。通院9日間の場合

変2 第三者への賠償責任

自転車で通勤中、歩いていた老人にぶつかってしまい、 相手に大けが (複雑骨折) をさせてしまった 損害賠償金(治療費+慰謝料+争訟費用)・・・900万円

自宅待機期間中を含む 感染事故見舞金(共済制度)

インフルエンザで1日通院・自宅待機4日間の場合 通院・待機期間見舞金・・・20,000円

このご案内は、Willnext「普通傷害保険+共済制度」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたってはパンフレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。

※上記「安心 1」「安心 2」のお支払い例は、引受保険 会社が作成した架空の事故例であり、過去に実際に発 生したものではありません。

ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。年間掛金には、共済制度運営費600円と、一般社団法人日本看護学校協議会共済会の年会費20円が含まれます。 資料請求・お問い合わせ先 制度運営:一般社団法人日本看護学校協議会共済会

oo 0120-847861 9:00 ~ 17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

引受保険会社:東京海上日動火災保険株式会社 株式会社メディクプランニングオフィス (担当課) 医療・福祉法人部 法人第一課 102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 ラ・メール三番町 9 階 TEL:03-3515-4143

willnext@medic-office.co.jp 15-T-00618(平成27年4月作成)

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-6 SJI ビル 2F

クリニカルラダー認証制度(クロックミップ CLoCMiP: Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice)の初年度認証の報告

日本助産実践能力推進協議会 代表 高 田 昌 代

クリニカルラダー認証制度が2015年8月より始 まり 5.723 人から申請を受け、昨年 12 月に実施した 客観試験の合格者 100%で 5,562 名のアドバンス助 産師が誕生しました。この人数は、当初予想してい た人数をはるかに超え、助産師の職業人としての熱 意と実行力を感じました。また、公益社団法人全国 助産師教育協議会のご協力もあって、助産師教育に 携わっている教員は数種の書類の提出免除という暫 定措置により240名がアドバンス助産師となりまし た。今年度は初年度のために、書類審査において説 明の不足や試験時期の変更など、多くの方々にご迷 惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申 し上げます。この制度は、助産実践能力が一定の水 準、つまり助産実践能力習熟段階クリニカルラダー レベルⅢに達していることを、全国で統一した方法 で審査し、認証する制度として、全国助産師教育協 議会をはじめ日本助産師会、日本看護協会、日本助 産学会、そして日本助産評価機構と日本における助 産に関連する5団体が日本助産実践能力推進協議会 を組織し、推し進めてきました。その目的は、妊産 褥婦や新生児に対して良質で安全な助産とケアを提 供できること、この制度により助産師が継続的に自 己啓発を行い、専門的能力を高める機会をもつこと、 そして、社会や組織が助産師の実践能力を客観視で

きることとしています。助産師教育に携わる助産師の場合、アドバンス助産師であることの必要性について様々な語論がありました。しかし、臨床にいる助産師と同様、助産師教育を行う教員であっても専門職として助産実践能力を持っていることの証となることや、臨床での実習指導の際、実習先のスタッフや学生の受け持ち妊産婦からの助産実践能力を持っている教員であることを客観視できることなどから、認証申請が必要であると考えています。

この認証制度は5年毎の更新制です。助産師は自己研鑽により助産実践能力の維持・向上につなげていくことで専門性は高められていきます。次回の更新時のことについては、決まりましたら早々にお知らせいたします。なお、平成28年度は本年度と同様、助産師教育に携わる助産師の暫定措置ならびに下図のスケジュールを予定しています。平成29年度(2017年度)は、認証申請に必要なラダーⅢの総合評価体制および研修内容(項目・時間)等についての環境整備、周知徹底のため、新規申請受付を休止いたします。新規申請は平成30年度(2018年度)より受付を再開いたします。

今後とも、皆様のご理解ご協力を賜りますようお 願いいたします。



新設校の紹介:確かな助産技術と豊かな人間性を育む

宝塚大学助産学専攻科 准教授 小神野 雅 子

本学は1987年に芸術大学としてスタートした宝塚大学に2014年新たに開設した助産学専攻科です。大学の建学精神である「芸術と科学の協調」に基づき、専攻科においてもアート=技を駆使し、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材の育成に取り組んでいます。

大阪市北区というアクセスの便利な都市部にある キャンパスは、周囲のオフィスビルの中にあると一 見大学らしくない建物ですが、コンパクトな中にも 充実した演習室を備えています。



その本学のキャンパスで平成27年度の全国助産師教育協議会、近畿ブロック助産師学生交流会を開催させていただきました。当日は270名の助産師学生の皆様にお集まりいただき、有意義な時間を共有することができました。



大阪府は死産数や児童虐待件数が連続1位(平成24・25年度)、HIV 感染者/AIDS 患者は東京に次いで第2位など、母子保健における課題の多い都市です。そのような地域で、助産師として母子保健に携わるために必要な視点を養うべく、専攻科では都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルス特論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」などの科目をおいています。

さらに特徴的な科目として、地域の助産師活動にも視野を広げ、発達心理学をベースとした技術を習得する「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」などを開講しています。



本専攻科は日本アタッチメント育児協会の養成校としての認定を受けており、これらの科目を受講し、認定申請をすることで「アタッチメント・ヨガインストラクター」「アタッチメント・ベビーマッサージインストラクター」の認定資格の取得が可能です。学生たちは、通常の講義では体験できない癒しの効果をヨガやベビーマッサージの講義を通じて体感しているようです。

また、大阪・梅田の地の利を活かし、大学近辺の多くの実習施設の協力を得て、充実した実習を行っています。今年度も学生全員が10例から14例の分娩介助を実施し、継続事例の妊娠期から産褥1ヶ月までの受持ちもさせていただきました。母親学級の企画・運営や、新生児家庭訪問の同行、保健センターでの母子保健事業への参加、ベビーマッサージ教室の見学など、地域母子保健活動にかかわる実習も多いです。このような豊かな実習体験と本学ならではの科目の履修、助産学を専門とする経験豊かな教員とのかかわりなどを通して、今後も感性豊かな人間性と専門職者としての倫理観を備えた地域社会に貢献できる助産師の養成を目指していきたいと思います。

平成28年度 定時社員総会のお知らせ

全国助産師教育協議会副会長 佐 藤 香 代

会員の皆さまには、いつも全国助産師教育協議会 の活動にご理解・ご協力をいただき、感謝申し上げ ます。

平成27年度は、福岡での定時社員総会で選任された新しい理事会で、慣れないながらも活動を行ってまいりました。「助産師教育における将来ビジョン2015」を策定し、ビジョン達成に向け胎動を開始したところです。

その間助産師教育を巡るさまざまな動きがあり、 逐次対応してまいりました。今回の総会は大きく変 わりつつある助産師教育や看護基礎教育の動向をは じめ、教育方法等、会員の皆さまと情報を共有しあ いながら活発な意見交換ができればと考えておりま す。

総会案内は、ホームページには既に掲載されておりますが、以下の予定で開催されます。会員の皆さまにおかれましては、万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

新潟の地でお目にかかれますことを、楽しみにしております。

第7回(通算52回)公益社団法人全国助産師教育協議会社員総会

日 時	場所
2016年6月3日(金)・4日(土)	新潟青陵大学 〒 951-8121 新潟県新潟市中央区水道町 1-5939

助産師基礎教育テキスト

●多様化している助産師基礎教育のどのコースにおいても 必要な、基礎的な知識と技術、態度を網羅しました。

第1巻 助産概論

(責任編集) 山本あい子 定価(本体3,400円+税) 第2巻 女性の健康とケア

(責任編集) 吉沢豊予子 定価(本体4,400円+税) 第3巻 周産期における医療の質と安全 (責任編集) 成田 伸 定価(本体3,400円+税) 第4巻 妊娠期の診断とケア

〔責任編集〕森 恵美 定価(本体3,600円+税)

のどのコースにおいても | 等に伴う記述を毎年 態度を網羅しました。 | 見直しています! | 第5巻 分娩期の診断とケア

(責任編集) 町浦美智子 定価(本体3,600円+税) 第6巻 産褥期のケア/新生児期・ 乳幼児期のケア

〔責任編集〕横尾京子 定価(本体3,600円+税)

第7巻 ハイリスク妊産褥婦・ 新生児へのケア

〔責任編集〕遠藤俊子 定価(本体4,500円+税)



数値データや法律、 ガイドラインの解説

新版 助産師業務要覧

I 基礎編

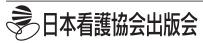
冨井トシ子 編 ● B5判 332頁 定価(本体3,000円+税)

I 実践編

価升トンナ 編 ●B5判 340頁 定価(本体3,000円十税)



http://www.jnapc.co.jp



〒102-0084 東京都千代田区二番町4-3 二番町カシュービル3F (営業部) TEL.03-6685-0340 FAX.03-6685-0341

【コールセンター(ご注文) TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】

「虐待に至る現在の若いママたちをそこまで追い詰めた過程」

ルポライター 杉山 春

私自身、生まれたての息子を抱いた時、とても誇らしい思いがあった。ピカピカの赤ちゃん。だれかれに自慢をしたかった。もう、20年も前になる。

私は、夫にも、両親にも夫の両親にも喜ばれて息子を産んだ。社会の中で、私の誇りは支えられていた。

その後、子どもをネグレクト死させた事件を取材した。その事件の母親も、子どもを出産した時、喜びの中にあった。早くママになりたかったと、裁判で証言をしている。

だが、この母親はその子が3歳になったとき、1 歳半の弟とともに50日間放置して餓死させた。懲 役30年の判決を受け、現在服役中だ。

2010年に大阪西区で、風俗店で働いていた彼女が、 3歳の長女と1歳半の長男を店の寮であるマンションの一室に閉じ込めて、餓死させた事件だ。私はこれを取材して『ルポー虐待 大阪二児置き去り死事件』(ちくま新書)を書いた。

この母親は、主婦時代、地域の行政が提供するすべてのプログラムに参加していた。ママサークルの立ち上げでも一定の役割を果たした。自分も周囲も自分自身を立派な母親であると認められる間は、公的に機関にアクセスでき、社会的にも動くことができたのだ。背一杯頑張る母親だった。

だが、浮気が理由で離婚し、キャバクラで働いて、思うように子育てができなくなり、さらに、元夫や 実父に助けを求められなくなったとき、公的機関に はアクセスできなくなった。この女性は、一度だけ 自分自身から「子どもを預かって欲しい」と行政に 電話をして助けを求めたが、相談時間を過ぎていた ため、支援に繋がらなかった。

彼女は、幼い時に実母から暴力やネグレクトを受けている。両親が離婚をしてシングルファザーに育てられたが、父親は忙しく、十分に話を聞いてもらい、尊重されるという環境にはなかった。その中で、中学時代から性的に活発になり、輪姦体験、援交などの体験があった。解離的な傾向があったという。

幼い時に命に関わる体験をすると、その被害を自 分が体験していると感じると生き延びられない。自 分以外の誰かの体験だとしてやり過ごす。そういう 防衛機制が解離だ。非常に治療が難しい。

こうしたメンタルの課題を抱えた彼女は、社会が 自分を助けてくれるということに確信がなかった。

彼女は、一人で子どもを育てながら、上手く生きられない自分自身を社会から隠そうとして、子どもを社会から見えなくしてしまった。そして、SNSのなかで、自分自身を飾り立てて表現した。仲間たちとの関わりから外れて、社会の外に追われることが何よりも怖かったのだ。

人が健康に生きるためには、尊厳をもって生きる ことが重要だ。

生育歴のなかで、周囲の大人から、大切に扱われ、 自尊感情を育まれた人たちがいる。彼ら・彼女らは、 成長の過程で、また、大人になってから、自分の価 値を信じて、判断を下すことができる。わからない ことは調べたり周囲に聞くことができる。困ってい る時には、様々な制度にアクセスしたり、人の助け を借りて自分を守ったりすることができる。彼らに 援助することは、あまり難しいことではない。むし ろ楽しいことかもしれない。

一方、否定的に育てられた人たちがいる。いつも 大人が優先で、子どもは後回し。男性が優先で女性 は後回し。周囲の大人の都合で突然怒られる。暴力 を振るわれる。嫌なことを言われる。性的に搾取さ れるなどだ。

幼いものや少女、若い女性たちは、社会の構造上、 尊重されにくい位置に置かれている。

新しい命を産み出すこと。それは、女性たちにとって社会的にも認められた誇りだ。だが、命を産み出す性だから尊重されるのではなく、無条件の尊厳を認められる時、育てることに困難があるときに、さまざまな支援につながることができる。

本当は、誰もがピカピカの誇りとともに我が子を 安全に育てたい。そのためには、母親自身が、幼い

ときから尊重され、大切に育まれていることが必要 なのかもしれない。困ったときには、必ず助けても らえると、他者への信頼を身につけていることが重 要になる。

思いがけない反応をしてしまう妊婦さんこそ、思 いを受け止めてあげてほしい。母になることだけを 大切にするのではなく、その人の尊厳を支えてあげ てほしい。

幼いときに、大切なものを手に入れられなかった 人たちにも、精一杯寄り添い、赤ちゃんとの出会い を大切な機会として、人を信用する力をつけてあげ てほしい。そのためには、助産師の役割はとても大 きいと感じる。

若い母親も、生まれてくる子どもも、どちらもこ の社会の大切な一員なのだと伝わりますように。

2014年9月発売

妊婦腹部触診モデルⅡ型

LM-105 標準価格 ¥450,000 (稅別)

レオポルド4段触診、胎児心音の聴診の 練習、指導ができる等身大のモデルです。

K■**KEN** 株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)218-9540 東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580 大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101





○医学書院の助産師向け書籍

編集 日本助産診断·実践研究会

本書は、助産および母性看護で活用できる診断名および定義、診断指標等を記し、 その参考となる資料が添えられた、臨床でも実習でも活用できる便利な1冊。

●B6変型 頁248 2015年 定価:本体2,500円+税 [ISBN978-4-260-02445-7]

出生と死をめぐる生命倫理 連続と不連続の思想

仁志田博司

40年にわたり日本の新生児医療を牽引してきた著者が、周産期における生命倫理の考え 方を述べる待望の書。豊富な経験と歴史的な観点を踏まえ読者に生命倫理の道筋を示す。

●A5 頁256 2015年 定価:本体2.700円+税 (ISBN978-4-260-02401-31

編集 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会

乳幼児健診を良く知らない人でも合格点の健診ができる本。今版では情報内容を更新し、 さらに各月齢別健診の目安やコラムを新たに整理することで読者の利便性を追求した

●B5 頁160 2015年 定価:本体3,200円+税 [ISBN978-4-260-02158-6]

助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)にもとづいた 産実践能力育成のための 編集 日本助産実践能力推進協議会

-「助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)」にもとづき、新人助産師が助産師外来や院内 助産を自立して実施できるレベルに成長するまでに必要な教育や評価のポイントを示す。 ●B5 頁212 2015年 定価:本体2,700円+税 [ISBN978-4-260-02089-3]

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [販売部] TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804 E-mail sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替 00170-9-96693 医学書院

学生の思考を探る ~対象者・学生・教員の三者が共に創る助産ケアを目指して~

宮崎大学医学部看護学科 助教 松 岡 あやか

教育に携わるようになって、実質5年が経過しようとしています。そのなかで、自分自身の強みや弱みを知りながら、学生とともに成長する日々を送っています。

これまで、私は学部における助産教育に携わってきました。ここ「日本のひなた」宮崎県は、温暖な気候に恵まれ、紺碧の太平洋を望む自然豊かな土地です。このような地域特性をもつ宮崎県は、合計特殊出生率上位2位(平成26年)という一方、低出生体重児の率も高いのが特徴です。そのため、周産期における母子および家族を対象とした助産実践に必要な基本能力の修得だけでなく、様々な妊産褥婦・胎児・新生児およびその家族のニーズに基づいた助産ケアを実践するための助産過程の展開能力の獲得を目指してきました。

学生たちは、志大きく「女性の健康を支えられる 助産師になりたいしという思いを胸に、実習に臨み ます。しかし、彼女らは、様々な背景を持つ実際の 対象者を前に混乱し、時に自分自身の行動が何を意 味しているのか考えられずにいることがあります。 私も、当初は、そのような学生を前にどうすればい いのか混乱することが多々ありました。その度に、 思うことは、「学生は、対象者の状況や反応をどの ように捉え、どのように考え、どう行動しようとし ているのか」ということでした。学生が描く、対象 者の全体像とニーズに基づいた必要な援助がなかな か見えてこないのです。そのため、学生の思考を理 解するために、学生と場面を共有し、対象者の反応 を共に探り、対象者のニーズを確認するなかで、学 生がクリティカルシンキングできるよう、状況に応 じた質問を投げかけながら、学生の思考過程の構築 に努めるようになりました。時に、学生と場面を共 有するなかで、学生が自分なりの対象像を描き、対 象のニーズに沿った援助を実践することで、満足な 表情の対象者から「学生さんがいてくれて良かった、 ありがとう」と声を掛けられている姿は、爽快なも のです。

しかし、私自身、助産師として、対象の意思・主体性を尊重した助産ケアを目指すなかで、いかに私と学生が描く対象者の全体像とニーズに基づいた必要な援助を対象者のニーズに近づけるかと、指導に熱が入り過ぎることが時としてあります。学生の能力を知り、いかに伸ばすかを考え、対象者・学生・教員の三者が共にケアを創り上げる過程での自分自身の教育的行動について内省する日々です。

現在、本学の取組みに、教授が中心となり企画した「桜川プロジェクト」があります。助産・看護実践力の向上を目的に附属病院看護部、産婦人科と連携し、新生児蘇生法や産後出血などの学習会を学生も含めて行っています。「桜川」とは、大学近くにあるコノハナサクヤヒメが三皇子を出産の際、産湯に使った霊泉に因んでいます。ロールモデルとなる臨床の助産師と共に学ぶなかで、チーム医療の大切さと実践力を身につける良い経験学習となっています。私も参加することで、教育という立場でなく、学生や臨床スタッフと共に実践力を高める良い機会となっています。

まだまだ、教員として発展途上中ですが、学生と 共に考え、共に学び合いながら、対象の意思・主体 性を尊重した助産ケアを共に創り上げる姿勢を持 ち、学生が学びのなかで助産師としてのアイデン ティティを形成できるよう成長を支えていきたいで す。また、学生と共に成長できるよう、常に自己研 鑽することを忘れず、自らも実践力を持った助産師 であるとともに、地域に貢献できる人材育成を目指 していきたいと思います。

公益社団法人 全国助産師教育協議会

平成 27 年度 第 3 回理事会議事録

日時:平成27年7月19日(日)11:00~16:30

場所:東京都助産師会館5階(会議室)

出席理事: 井村 真澄、我部山キヨ子、佐藤 香代、

大石 時子、久保田君枝、鈴木 康江、 高橋 順子、福島 裕子、渡邊 典子

欠席理事:兵頭慶子

出席監事:熊澤美奈好、島田 啓子 出席幹事:潮田千寿子、山崎 圭子

記:潮田千寿子 (敬称略)

理事総数:10名 出席理事: 9名 欠席理事: 1名 監事総数: 2名 出席監事: 2名

*出席理事が過半数であり、理事会が成立する。

議事次第

I会長挨拶

- ①50周年記念誌も出版され、先人から引き継が せていただいたことを維持継続するだけでな く、委員会や理事の活動の業務区分をはっきり させながら、さらに新たな課題も明確化し共有、 合意形成し、具体化、予算化と一致させながら 進めていきたい。
- ②将来構想に向けてより良いアウトカムにつなげ るために一致団結し、全校加入をめざす。厚労 省や文科省への働きかけにも有意義であると考
- ③財政基盤を強化させたい。今年度内に厚労省ス キームにのっとった形の補助金獲得も目指して

理事会・総会・議事録の効率化を図る。Face to face で一堂に会した理事会とともに、メール 理事会等を機能的に活用して迅速な運営を行 う。

④内外の情報を迅速かつ効果的に入手・判断し、 国内外の関連団体の動向を見極めながら、助産 師教育の基盤を作っていく重要局面と認識して

以上、事務所はコンパクトであるが、理事各位の 協力を頂き能率的・効率的な活動をしていきたい。

Ⅱ審議事項

1) 議事録承認

- ①平成27年度第1回理事会議事録の承認
- ②平成27年度社員総会議事録の承認
- ③平成27年度第2回理事会議事録の承認
- 2) 理事担当委員会、役員業務分担
 - ①理事一覧表、地区長一覧表について承認
 - ②委員会一覧表について一部承認
- 3) 平成27年度理事会・地区長会予定について承 認

第4回 9月29日(火)11-16時 第5回11月3日(火祝)11-16時 第6回12月13日(日)11-16時 第7回1月11日(月)13時半から 地区長会11時から

- 第8回3月26日(土)11-16時 4) 地区長に関する申し合わせ事項
 - ・第2条4項を追加する提案の経緯が説明さ
 - ・全国からまんべんなく出ることが大事であ ることを共通認識する。申し合わせ事項に は「推薦することができる」という文言と する。
- 5) 正会員入会の承認
- 6) 教育検討委員会
 - ・全国研修会のスケジュールの検討:次年度 は、宮崎大学、兵頭先生。
- 7) 平成28年度総会日時・場所
 - ·H28年6月3/4(金·土)に新潟青陵大学 で総会を開催する。
 - ・前日の2日(木)に理事会を開催する。
- 8) 全助協 ICM ポスター案について説明され、承 認された.
- 9) 将来構想に関する今後の活動
 - ①助産師教育の将来ビジョン HP 掲載情報の 検討について
 - ②将来構想委員会
 - ③教育検討委員会教育評価班での活動内容
 - ・ミニマム・リクワイアメンツについては、 学生だけでなく教育者にも調査を行う。

Ⅲ報告事項

- 1) 会計
 - ① 27 年度総会決算
- 2) 社会貢献委員会
 - ①「平成27年度健やか親子21|全国大会の通 知
- 3) 助産師教育研修研究センター

- ①第2回運営委員会議事録
- 4) 事務所移転
 - · 6月29日に移転した旨、報告された。
- 5) 会長交代・事務所移転の挨拶状送付
- 6) ホームページ パスワードの変更:7月中に変 更を予定。

Ⅳその他

- 1) ICM への祝電について
- 2) 会計の進め方についての決まりごと

次回 理事会開催予定日時 平成27年9月29日(火)11時から 於)東京都助産師会館5階(場所は確認後)

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記議事録の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した会長及び監事が記名押印する。

平成 27 年度 第 4 回理事会議事録

日時:平成27年9月29日(火)11:00~16:00

場所:東京都助産師会館5階(会議室)

出席理事:井村 真澄、我部山キヨ子、佐藤 香代、

大石 時子、久保田君枝、鈴木 康江、兵頭 慶子、福島 裕子、渡邊 典子

欠席理事:高橋 順子

出席監事:熊澤美奈好、島田 啓子 出席幹事:潮田千寿子、山﨑 圭子

書 記:潮田千寿子 (敬称略)

理事総数:10名 出席理事:9名

欠席理事:1名

監事総数:2名

出席監事:2名

*出席理事が過半数であり、理事会が成立する。

議事次第

I 会長挨拶

Ⅱ審議事項

- 1) 議事録承認
 - ・平成27年度第3回理事会議事録の承認
- 2) 平成27年度・28年度委員会委員の承認
- 3) 厚労省通達:母性看護学実習及び小児看護実 習における臨地実習に対する見解
 - ・厚労省を訪問し、今後の対応を検討。
- 4) 平成27年度要望書

- ・要望書は修正をして、次回理事会で検討する。
- 5) 将来構想 2015 の実現に向けた具体的方略 会長から、三役で話し合ったことが報告された。 今後対策について、取りまとめて文章化する方向 である。
 - ①各ビジョンは理事会の意見・合意形成を元に、 委員会活動に直結させて活動していく。
 - ②全助協の活動をすすめる根拠となるデータを 集 める。
 - ③内部の意見だけでなく、文科省・厚労省・諸 団体の動きにアンテナを張りながら進めてい く。

<ビジョン1 2年間の教育>

・教育検討委員会、将来構想委員会で、問題・ 課題等の検討を行う。

<ビジョン2 実習環境>

- ・問題の明確化(教員の労働環境・実態調査、 教育機関と臨床現場とのコラボレーション)。
- <ビジョン3 教育の質保証 教育者の能力向上>
 - ・研修センターの活用、教員の高等教育化、資格能力委員会の教員ラダー等。

<決定事項>

- ・ビジョンは、次回の理事会で再度検討。
- 6) ひまわりの会への参加について
- 7) 全国研修会
 - ・第41回全国研修会に関する内容
 - ①ポスター
 - ②参加費
 - ・会員 10,000 円、非会員 12,000 円としたい旨、 予算案をもとに説明、承認された。
 - ③講師謝金について承認された。
- 8) 広報委員会
 - ①次回発刊 No.86 NL は承認された。
 - ② HP 掲載
 - ・会長挨拶のページに、将来ビジョンを掲載 する。
 - ・ICM で紹介した英文パネルは、「New」の 部分に入れ、しばらくしてからバナーに入 れる。
- 9) 助産師教育研修研究センター運営委員会
 - ①講師謝金
 - ・資料に沿って、内部講師の謝金について検 討したい旨説明があり、次回の検討事項と する。
 - ② 50 周年記念誌
 - ・文書を寄稿者には無料配布。
 - ・販売時の金銭の授受方法については委員会 で検討する。郵送料は相手もちとすること

で了承された。

Ⅲ報告事項

- 1) 自民党看護問題小委員会出席、要望書提出
- 2) 日本助産実践能力推進協議会
 - ・7月会議の内容は資料に沿って、9月会議の内容は口頭で説明がなされた。
 - ・CloCMiP における教員の認証について意見交換がなされた。

次回理事会で再度審議し、次回の日本助産実 践能力推進協議会で意見を述べる。

- ・レベルⅣ認証については、今後の検討事項で ある。
- 3) 女性の健康の包括的支援に関する法律案の早期成立を望む緊急集会
 - ・資料に沿って、情報提供された。
 - ・対馬ルリ子医師、高階恵美子氏、日本助産師 会岡本会長、東大大須賀医師等が挨拶または 趣旨説明した。
 - ・日看協、助産師会もこの法案の可決を望んで いるという意見が出された。
- 4) 会長挨拶・助産師教育における将来ビジョン 2015のHP掲載
 - ・上記、審議事項を参照。
- 5) 平成27年度理事会·地区長会日程
 - ・資料に沿って説明がなされた。
- 6) 看護師等免許保持者の届出制度についてのポ スター・チラシの配布
 - ・次回 NL と同時に会員校に配布する。
- 7) 福島県保健福祉部からの問い合わせ
 - ・専攻科と別科を併設している大学があるかの 問い合わせがあった。
 - ・2 つを持つ課程はないこと、全助協としては 大学院の設置を勧めることを伝えた旨、報告 がなされた。
- 8) 全助協九州・沖縄地区会議の議題
 - ①助産師教育2年間が納得できない、理事会の みで決定して要望書が出されることに違和感 があるとの疑義が呈された。
 - ・要望書には、2年と明記していない。また パブコメもとっていることを伝えた。
 - ②他団体と比較して、旅費交通費が高い。(保 健師協議会は14%であるのに、全助協は高い とのこと)
 - ・公益社団法人として内閣府に毎年厳しく チェックされており、行政書士にも確認し、 なんら問題ないことを伝えた。
 - ・納得できなければ全助協に質問状を出して いただきたいと伝えたが、届いていない旨

報告された。

- 9) 看護協会納涼会
 - ・他団体との交流となる会であり、省庁・医療 関連団体等との情報交換があるので、今後も 参加していきたい。
- 10) 国際関連活動委員会
 - ・前の委員会での調査結果は17か国に報告をし、 現在投稿の準備を進めている。
 - ・ICM の動きについての勉強会を東京地区では ないところで行ってほしいという意見があり 検討したい→助産学会のプレコンで、90分で 実施することの提案があった。
- 11) 教育検討委員会
 - ①教育推進班の大学院のモデルカリキュラムは、次回理事会で提示、検討する。 次は学士課程におけるモデルカリキュラムを 検討していく案がでている。法改正後の教育 の現況等のアンケートについては11月実施
 - ②教育評価班は、助産学生の看護基礎教育にお ける到達度のアンケート調査を行う予定であ る。
 - ③中部地区研修会
 - ・資料に沿って説明がなされた。
- 12) 広報委員会
 - No85 NLの発行、HP更新については、審議事項参照。
- 13) 社会貢献委員会:社会貢献班 活動内容
 - ・資料に沿って説明がなされた。
- 14) 助産師教育研修研究センター運営委員会
 - ・資料に沿って説明がなされた。
 - ・FS 公開講座、認証研修については HP に出している。

Ⅳその他

- ①産科医療補償制度のニュースレターを、会員 校に配布が了承された。
- ②認証評価機構の理事会
 - ・大学や専門学校の認証をしている。次年度 の認証については審査申請している教育機 関はないが、分野別評価を受けて頂きたい との意見があった。

次回 理事会開催予定日時 平成27年11月3日(火祝)11時から16時 於)日本赤十字看護大学1階 第3会議室

会長は、以上をもって本日の議事がすべて終了した旨を述べ、閉会を宣言し、解散した。

上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名 人および議事録作成理事がこれに記名押印する。

平成 27 年度 第 5 回理事会議事録

日時: 平成27年11月3日(火祝)11:00~17:00

場所:日本赤十字看護大学 1階第3会議室

出席理事: 井村 真澄、我部山キョ子、佐藤 香代、 大石 時子、久保田君枝、鈴木 康江、 高橋 順子、兵頭 慶子、福島 裕子、

渡邊 典子

出席監事:熊澤美奈好、島田 啓子 出席幹事:潮田千寿子、山﨑 圭子

書 記:潮田千寿子 (敬称略)

理事総数:10名 出席理事:10名 監事総数:2名 出席監事:2名

*出席理事が過半数であり、理事会が成立する。

議事次第

I 会長挨拶

・母性看護学実習に対する厚生労働省(以後、厚 労省と表記)からの通達や、助産実習での分娩 介助8例の実習縮小・短縮化の懸案事項等に対 する我々の進むべき方向を検討していきたい。

Ⅱ審議事項

- 1) 議事録承認
 - ①平成27年度第4回理事会議事録の承認
- 2) 厚労省委託研究関連
 - ①母性看護学、小児看護学及び母子看護学実習 に関する調査報告書 結果速報
 - ・今後も情報収集していく。下記②の審議事項と連動しているため、②の決定事項を参照とする。
 - ②厚労省医政局看護課訪問報告
 - ・厚労省から後日連絡があり、平成28年の総会で説明することとなった。
 - ・その他、誤解を払拭する場を提供するなど、 協力していく。
 - ③平成27年度地方分権改革に関する提案
 - ・意見交換の結果、上記内容が承認された。 協力方法としては、下記④の審議事項を参 照とする。
 - ④厚労省委託研究
 - ・会長から、上記③の内容を受けて、厚労省 から全助協への研究依頼があり、質的・量

的に結果を出すことが求められている旨, 説明があった。研究の進行方法について、 資料に沿って説明がなされた。

- a) 後方視的な実施
 - ・理事を中心とし、さまざまな教育機関に、 評価表等のデータを提供していただくよ う依頼する。
- b) コアメンバー
 - ・三役を中心に、積極的に研究を進めていただける理事がいれば、協力をお願いしたい。
- c) 前方視的な実施
 - ・三役を中心に、内容や方法等、計画骨子 を立案する。
- 3) 将来構想 2015 の実現に向けた具体的方略
 - ・資料に沿って説明がなされた。
 - ・年次計画案としては、青字の計画で決定と する。2020年の総会で評価報告する。
 - ①ビジョン1
 - ・すでに将来ビジョンとして「2年」と表明 しており、その中で検討する必要があるこ とが確認された。
 - ・教育検討委員会から2年間教育モデル・コアカリキュラムを出していただき、それについて将来構想委員会が日本でのシミュレーション、推進具体策の検討をする。
 - ・将来構想委員会が今週末に開催されるため、 一両日中に教育検討委員会から、理事会あ てにモデルカリキュラムを送信していただ くよう、依頼する。
 - ②ビジョン2
 - ・組織強化委員会で、検討してデータをまと め、たたき台を出すよう依頼する。
 - ③ビジョン3
 - ・研修センターが担当することも検討されたが、将来ビジョンの大きな目標値に沿って、 各委員会で主体的に目標値と具体的な活動 を検討し、それを理事会で検討していく。
- 4) 平成27年度要望書について検討した.
- 5) 平成28年度事業計画・予算について検討した.
 - ・井村会長からの計画を含めて、事業計画を 立案する。
 - ・会見担当山崎幹事から、各委員会担当理事 に様式等を配信し、担当理事から担当委員 長に配信する。

委員長から理事経由で、11月25日までに 山崎幹事に提出する。

- 6) 地区長会 地区活動報告書
 - ・資料に沿って、地区活動報告書の説明があ

- り、総務から地区長あてに配信することが 承認された。
- 7) 個人会員入会者承認された。
- 8) 講師謝金支払基準の見直し
 - ・意見交換の結果、会計担当に再度検討して いただき、次回検討する。
 - ・今年度の講師に来年度の謝金が減額される と依頼しにくいため、考慮する。
- 9) 広報委員会
 - ①ニュースレター No.86 号(案)について承認 された
 - ②ホームページ
 - ・ICM アジア大会で使用したポスター等、英 文化してあるものを利用し、HP の作成と して検討する。
 - ・必要時には、英文化を予算立案するが、今 回は上記対応とする。
- 10) CLoCMip における教員の認証(佐藤理事)
 - ・教員になる時点で、レベルⅢ程度の能力を 持つのが前提であってほしいことが確認さ れた。
 - ・CLoCMip については、臨床能力とし、若 い人たちの実践能力を高めてもらうものと 考える。
 - ・教員の更新は、教員のラダー等を参照する など、全助協内で維持することを検討する と報告する。
- 11) 助産師教育研修センター運営委員会
 - ・平成28年度から委員数の2名増加について審議の依頼があった。
 - ・意見交換の結果、事業計画を提出していた だき、次回検討していくことで決定した。

Ⅲ報告事項

- 1) 国際関連活動委員会
 - ・日本助産学会のプレコンとして、global standard の勉強会を実施する予定である。
- 2) 教育検討委員会
 - ①教育推進班;モデルカリキュラム
 - ・資料、および追加資料に沿って、説明がなされた。
 - ・質疑応答の結果、大学院モデルカリキュラムを発信していただく。(上記、審議事項3) ①参照)
 - ②教育評価班;アンケート調査
 - ・資料に沿って説明がなされた。
 - ・質疑応答の結果、アンケートの時期は3月 末だと学生が卒業しているため、早めに実 施することになった。

- ・分娩介助例数の到達度についても含める。 (上記、審議事項 2) ④参照)
- 3) 第41回全国研修会パンフレット
 - ・認証研修の件について、合意のもとパンフ レットが完成した。
 - ・地域貢献委員会のリーフレットに同封して 送付することになった。
- 4)「学生によるオレンジリボン運動」実施予定校 一覧表
 - ・今年度は6校から実施の申請があった。 第2段階の申請は11月中旬であり、さらな る申請があれば、お願いしたい。
- 5) 助産師教育研修センター運営委員会
 - ・特定分野実習指導者講習会(東京会場)は、 52名出席し、修了した。厚労省佐山氏も同 席。
- 6) ひまわりの会
 - ・資料をもとに、特に全助協に害があるよう なことはなく、参画団体となった旨、報告 された。
 - ・学生(東邦、日赤、聖路加)が参加、学生 からも良い感想があった。
 - ・次年度も参加要請があり、今後社会貢献委 員会の案件としていきたい。

Ⅳその他

- 1) 東京都助産師会前理事長 遠藤千枝子氏ご逝去 弔電を送ったことが報告された.
- 2) 中部地区研修会が無事に終了した旨,報告があった.
- 3) 関東・東北豪雨被害指定について
 - ・現在は申請なし。今後申請があれば、メール理事会にかける。

次回 理事会開催予定日時 平成27年12月13日(日)11時~16時 東京都助産師会館 5階会議室

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記議事録の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した会長及び監事が記名押印する。

平成 27 年度 第 6 回理事会議事録

日時:平成27年12月13日(日)11:00~16:30 場所:東京都助産師会館5階(会議室)

出席理事: 井村 真澄、我部山キヨ子、佐藤 香代、

大石 時子、久保田君枝、鈴木 康江、 高橋 順子、兵頭 慶子、福島 裕子、 渡邊 典子

出席監事:熊澤美奈好、島田 啓子 出席幹事:潮田千寿子、山﨑 圭子

書記:潮田千寿子(敬称略)

理事総数:10名 出席理事:10名 監事総数:2名 出席監事:2名

*出席理事が過半数であり、理事会が成立する。

議事次第

I 会長挨拶

- ・厚労省からの特別補助金事業は粛々と進め、 助産師教育にとって価値あるものとする。
- ・次年度の予算案を事業計画に沿って立案中である。活動計画について、理事から会員に還元される内容も含めてご検討いただきたい。 モデルカリキュラムについても、検討していきたい。

Ⅱ審議事項

- 1) 議事録承認
 - ・平成27年度第5回理事会議事録の承認
- 2) 平成27年度要望書
 - ①母性看護実習4団体要望書
 - ・特に意見なく、承認された。決定後に、ホームページ上での公表およびネット配信で周 知をはかる。
- ②全助協 両省への要望書 変更点の説明 <決定事項>
 - ・厚労省には、10 例堅持をお願いする。
 - ・修正後に各理事にメール配信し、最終確定 版作成する。年明け1月中旬には提出でき るよう、日程調整を行う。
 - ・提出後に、ホームページ上での公表、およ びネット配信で周知をはかる。
- 3) 厚生労働省看護職員確保対策特別事業の申請: 資料に沿って説明がなされた。
 - ・日本赤十字看護大学での倫理審査承認番号 を伝える。
 - ・倫理申請を要する教育施設対象に、提出(迅速審査)書類を添付する。
 - ・追加で必要な書類等があれば、相談する。
- 4) 教育検討委員会
 - ①大学院モデルカリキュラム (案)、1年課程モデルカリキュラム (案)のデルファイ調査(案)
 - ・枠組み、根拠やレベル設定、図や模式化な

- どの資料を委員会から提出していただき、 それを理事会で検討する。
- ・デルファイ調査の調査実施計画書等の根拠 も提示していただき、次回検討していくが、 今年度は時期的に計画が中断する可能性も ある。
- ②調査のお願い文
 - ・上記①の決定事項とする。
- ③調査協力のお願い文
 - ・下記④の事項とともに検討する。
- ④ 「カリキュラム改正に伴う大学における助産 師教育課程の教育内容に関する調査」
 - ・調査項目を明確にする。その内容に沿った 依頼文を作成する。
- ⑤教育検討委員会(教育推進班)平成28年度 予算案
 - ・事業計画検討の項で検討する。
- 5) 社会貢献委員会
 - ①調査協力のお願いについて
 - ・助産師教育課程を担っている教員が個人的 に実施している活動も含める旨、明記する。
 - ・内容を確認し、枠を作成して、回答しやす いように工夫する。
- 6) 平成28年度事業計画・予算(案)
 - ①資格‧専門能力委員会
 - ・教員のキャリアラダーの検証は削除する。 修正後の計画を山﨑幹事に提出する。
 - ②将来構想委員会
 - ・地区別研修における「臨床助産師と教育者 との意見交換会」の費用は1万円で、各地 区長に渡す。

総会での「助産師教育実践報告会」のプログラムを作成する。

- ③国際関連活動委員会
 - ・海外の助産師教育の視察を平成29年度目標とし、平成28年度は計画検討とする。
- ④教育検討委員会

【推進班】

・事業計画については、上記 4) 項の検討が 必要であるため、委員会に持ち帰って再検 討する。

ただしパブリックコメントの必要上、12月 18日までに、佐藤理事に事業計画を送付す る。

・予算案は次回1月の理事会で検討する。

【評価班】

- ・承認された。
- ⑤広報委員会

- ・承認された。
- 6社会貢献委員会
 - ・災害時の「講師派遣交通費」は「教育支援費」。 「テキスト等購入費」は、テキストの購入 や郵送費等とする、予備費的要素である旨 説明され、承認された。
- ⑦組織強化委員会(追加資料:全国助産師教育 課程と全助協会員校数)
 - ・調査で教育評価班と重複する対象について は、同時に送付することも考慮する。
 - ・学生交流についても社会貢献と重複する可能性もあるが、全国研修会時に実施予定である旨、承認された。
- ⑧センター運営委員会
 - ・全助協からの持ち出し等、全助協からの収 支双方に記載されるべき部分を明記する。
 - ・詳細資料は参照とする。

(9)総務

・会議の増加とともに、九州からの交通費で 増額になった旨説明され、承認された。

⑩事務局関連費

- ・事務員の給料手当は、消費税が上がっても 増額されていない。しかし2年前から臨時 手当が支給されており、本人も特に問題な いとのことで、そのまま承認された。
- 7) 講師謝金支払基準の見直し
 - ・資料に沿って説明がなされた。
 - ①内部講師謝金
 - ・提案通りとする。
 - ②外部講師謝金
 - ・日看協等と比較して、高額である旨の意見があったが、多数決の結果、「職位によって減額する(8名)」に決定した。

Ⅲ報告事項

- *報告事項は、資料を参照とし、質問があれば、担 当理事に質問する。
 - 1) 教育検討委員会(教育評価班)
 - ·調查報告
 - 2) 第41回全国研修会の経過報告
 - 3) 広報委員会
 - · 広報活動進捗報告
 - 4) 社会検討委員会
 - ・「健やか親子 21」全国大会参加報告
 - 5) 日本助産実践能力推進協議会

Ⅳその他

- 1) 第2回石巻市地域医療福祉セミナー
- 2) 元全助協会長 鈴木雅洲氏ご逝去 弔電・お

別れの会

- ・ 熊澤監事から弔電を打っていただいた。 また全助協の総代として出席していただく。
- 3) 今後、理事会で調査等の審議・報告を行う場合は、その必要性、趣旨、対象、目的と方法、 経緯等を書面で提出することが決定した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記議事録の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した会長及び監事が記名押印する。

次回 地区長会,理事会開催予定日時

地区長会;平成28年1月11日(月)11時~13時 東京都助産師会館 5階講堂

理事会 ; 平成 28 年 1 月 11 日 (月) 13 時~ 17 時 東京都助産師会館 5 階会議室

編集後記

新春を迎え、お慶び申し上げます。今年は、申年です。申(サル)は去るとして、「災いが去る」など、いいことや幸せがやってくる年とも言われます。街中には、「赤い下着をつけると元気になる」とやたら赤いものが目立っておりました。明るく元気に、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。あっという間に1月は終わり、2月は駆け抜け、3月を迎えました。申には「伸ばす」という意味もあります。草木が芽吹く躍動の春です。助産力を伸ばし、助産師活動の活気につなげていきましょう。今年度より、ニュースレターの発行が年2回となりました。国内外の助産活動など幅広い視野で皆様にお届けいたします。様々な角度からの情報提供を心よりお待ち申し上げております。

古川 洋子 (滋賀県立大学)

中西 伸子 (奈良県立医科大学)

東尾 公子(近畿大学附属看護専門学校)

岡山 久代 (滋賀医科大学)

鈴木 康江(鳥取大学)

●助産師教育ニュースレター 第86号

2016年2月29日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局 Japan Society of Midwifery Education(J.S.M.E) 会長 井村 真澄

〒 112-0013

東京都文京区音羽 1-19-18 東京都助産師会館 2 階電話・FAX 03-3944-2911

(火・金 事務局在室)

http://www.zenjomid.org/

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

